

池邊大宮治天下天皇大御身
燃方賜物時歲
次丙午年由於天王天皇与太子而誓願賜我大
御病太平故此故釋造寺藥師像在在奉詣狀
當時崩賜造不堪者詔由大宮治天下天王天
皇及東宮體主夫命受賜而歲癸卯年在奉



図版②

「薬師如来像」



図版③

銘文は、右頁に示したのがその全體であり、5行90字である。用明天皇が病氣治癒を祈り、薬師如來像の制作を願われたが果たされず、その遺志を受け継いだ推古天皇と聖德太子がつくられた事を記している。前号の釈迦三尊の銘文は铸造であるが、この銘は薬師像が铸造されてから鑄で直接に刻されている。そのため文字の字画の縁が細く鋭く盛り上がっている。拓すると字画の白と黒の境界部分が細く黒く拓出される。丁寧に拓されたものからは、この鑄で刻された状態をはつきりと見ることが出来る。戦前に制作された翻刻拓本からは、この鑄で刻された盛り上がりの黒い線を見ることは出来ない。

楷書である。所々に行書に近い筆勢がある。所々に行書に近い筆勢がある。所々に行書に近い筆勢がある。

〈釈文〉

池邊大宮治天下天皇、大御身、勞賜時、歲次丙午年、召於大王天皇與太子而贊願賜我大御病太平欲坐故、將造寺藥師像作仕奉詔、然當時崩賜道不堪者、小治田大宮治天下大王天皇及東宮聖主、大命受賜而歲次丁卯年仕奉

見られ、伸びやかな動きを示している。横画などの起筆から終筆の筆勢には、顯著な抑揚がみられ、初唐の三大家である褚遂良の筆勢を彷彿とさせる。

天平の名筆・聖武天皇筆と伝えられる『雑集』に近い書風ではなかろうか。試みに選字図版②の横に、共通する3文字を取り出し比較してみた。

伊藤 滋 メールアドレバ
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院

平成の群像 (2014)



第48回毎日書道展

上 村 棠 芳



言葉との出会い

私の現代詩文書作家としての歩みは第48回毎日書道展で会員賞を受けた時から始まります。

「お習字」というあくまで習い事として始まつた私の「書」の生活は、しばらくは指導者の言われるままに展覧会に出品し、入選に喜ぶ日々でした。それが、賞をいただくようになって、意欲が芽生え、ひたすら筆を手にする時間が増え、平行して評価も戴き、しかしあだ、自立した作家としての意識はなかった。ところが思いがけない「会員賞」を受けたとき、喜びと同時に、これから「自分の姿」をどう表現していくかという賞の重みからくる重責がのしかかりました。

幸い私は学生時代詩人の小野十三郎先生に詩論の講義を受けており、多少なりとも「言葉」への関心があり、十三郎詩「葦の地方」などは

先生の朗読がいまだに思い出されるほど頭に残つております、「詩心」も芽生えていたのかも知れません。埼玉の詩人弓削紺子さんとも識り合い、詩集を読み漁りひたすら「語彙力」を高め、「言葉のひびき」を学ぶようになりました。誰にでも読める現代詩文書を如何に表現していくか、観る人に感じてもらえる作品創りの苦労は、すればするほど新しい光が差し込んでくることも知りました。「楽しみながら」墨を硯り、筆を運び、いろんな紙に書いているとき新しい発見も生まれてきました。

素材（言葉）に合わせて表現を変えることもいろんな臨書をするなかで意識するようになります。良寛の楷書やら隸書も好んで臨書するようになり、今も創作と臨書は併行して学んでいます。

「言葉との出会い」、「言葉のひびき」は私にとって最も大切にしている要素です。そしてそのひびきから生まれる造形、古典にない文字のデフォルメは私は古典から開放されたエネルギーとして意識的に取り入れるようにしています。墨色も言葉によっては濃墨に、あるいは淡墨にと自由に使い分けしています。

小品を創る時には趣味の世界に浸っている自分に気づきます。言葉も自由に作って、自分の言葉で作品を創るのが本来詩文書作家としての姿だと思っています。夢の途中として、詩人の美しい言葉を、ひびきある言葉を、如何に書表現していくか、書道芸術院の皆さんと競いながらも学び合っていきたいと願っています。今後ともよろしくお願ひいたします。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

お願いし貴重なお話を伺うことができ
受講生にとり大変ありがたいことであつ
た。

第50回書道芸術院単位認定講習 関西総局高野山講習会盛況に

本院恒例の単位認定講習会が第18回より32年ぶりに和歌山県高野山にて開催され、受講生役員併せ220名余の参加をいたまき会場の高野山大学体育館いっぱいの盛況であった。真夏の猛暑の中ではあつたがやはり高野山、下界より数度低い涼しい環境で講習できることは大いに助かった。

詳細の報告は次号にて小林琴水関西総局長よりいたくが、科目に高野山金剛峰寺添田隆昭宗務総長のご法話を

熱心な受講生
詳細の報告は次号にて小林琴水関西総局長よりいたくが、科目に高野山金剛峰寺添田隆昭宗務総長のご法話を



熱心な受講生

種谷扇舟生誕100年展成田書道美術館にて開催

お願いし貴重なお話を伺うことができ
受講生にとり大変ありがたいことであつ
た。

種谷扇舟生誕100年展成田書道美術館にて開催

本院元会長種谷扇舟先生が2004年12月にご逝去されて早や10年、本年は生誕100周年を迎えた。これを記念して「書と資料でたどる生誕100年～種谷扇舟展」が先生の郷里千葉県の成田山書道美術館のご厚意をいただき開催された。既に同美術館にて種谷扇舟遺墨展が数年前に開催されており、主要な展覧会発表作品などは展示済みであり、今回は視点を変えて中国での個展にて発表された臨書作品、訪問した中国各地への想いを揮毫した10連幅作、澄懷堂芥川龍之介句88点の一部、更に生前交流のあった様々な方々への想いを綴った印

信箋88枚の細字原稿など多彩な内容で構成された企画展であった。作品は併句作品を除きほとんどが軸装であるが、落ち着いた展示は好評で静かに作品に向かい合う観客でにぎわった。

企画展と同時併催として「第41回書道日報書道展」「第54回白扇書道会展」が開催され7月29日～8月31日の約1か月に5000名を超える観客で盛況であった。季刊誌「修美」の夏季号にて「生誕100年 種谷扇舟」が特集され、主要作品とともに白扇書道会幹部による種

大井錦亭先生の寄稿など30数ページで構成されている。興味ある方は白扇書道会の種谷萬城理事長にご連絡を。

書道舍創立60周年、50回記念展開催、学生展は40回展

お願いし貴重なお話を伺うことができ
受講生にとり大変ありがたいことであつ
た。

書道舍創立60周年、50回記念展開催、学生展は40回展

本院元会長種谷扇舟先生が2004年12月にご逝去されて早や10年、本年は生誕100周年を迎えた。これを記念して「書と資料でたどる生誕100年～種谷扇舟展」が先生の郷里千葉県の成田山書道美術館のご厚意をいただき開催された。既に同美術館にて種谷扇舟遺墨展が数年前に開催されており、主要な展覧会発表作品などは展示済みであり、今回は視点を変えて中国での個展にて発表された臨書作品、訪問した中国各地への想いを揮毫した10連幅作、澄懷堂芥川龍之介句88点の一部、更に生前交流のあった様々な方々への想いを綴った印

信箋88枚の細字原稿など多彩な内容で構成された企画展であった。作品は併句作品を除きほとんどが軸装であるが、落ち着いた展示は好評で静かに作品に向かい合う観客でにぎわった。

企画展と同時併催として「第41回書道日報書道展」「第54回白扇書道会展」が開催され7月29日～8月31日の約1か月に5000名を超える観客で盛況であった。季刊誌「修美」の夏季号にて「生

平成26年度書道芸術院秋季展公募審査結果

平成19年度より行っている秋季展審査会員候補公募の審査が8月27日東京文具会館にて行われ左記のとおり各賞が決定した。今回の応募点数は370点219人。他に選抜作家110名余。推薦作家5名(アートサロン毎日)が出品する。

*会場 セントラルミュージアム銀座
*表彰式・作品研究会 30日13:30
*会期 9月30日～10月5日
*祝賀懇親会 同日16:00
*秋季菊花賞(6名)
(漢字) 大山和歌子、堀田白扇、(かな)都丸みどり、(前衛)荒川空華、
大町菜円、大村直子
(現詩・篆刻は該当なし)
*秋季俊英賞(44名)
(漢字) 旭 筋陽、板橋雅邦、伊藤紫邦、伊藤和雪、今関心華、小川白柳、
加藤雅芳、河岡北秀、吉瀬彩雨、木村澄春、小林純風、篠原楊流、高橋恵泉、
田中喜美枝、筒井寿子、櫻尾筆興、永見史篠、(かな)田村玲子、長谷川千峰、治田芳江、(現詩)相澤正華、市川紫泉、大橋佑明、菅家淑美、金野翠苑、齋田舞夢、佐々木一峰、佐藤弦佳、
湊 溪花、遊佐香風、(篆・刻)稻村翠流、(前衛)伊藤有津、小比木白洋、
神澤凌雲、小暮千晶、後藤美希、後藤恭、小山彩虹、下沢博美、鈴木春江、
田名部西香、島中成山、福島和歌子、
(北京)の決定などを協議した。

谷扇舟を語る座談会、さらに恩地春洋、
賀靖夫専務理事他が訪問し次回開催地

遊佐紅雅

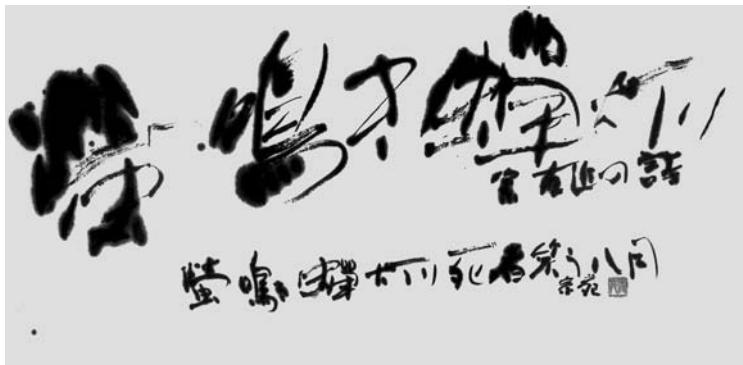
遊佐紅雅

現代詩文書（六）

熊谷宗苑

前衛書（六）

大石仙岳



河北書道展出品作

熊谷宗苑書

7月、8月は1年の中で一番忙しい時期かと思う。小・中学生の夏休みの宿題に付き合ってのこと。
大体一人3・4枚の提出作品を仕上げなければならないとなると本人ももうへトへト。こちらも話す言葉も声高

になりイライラ、へトへト。

とは「見え、書文化の継承、発展を謳う身」とすれば一人でも多く書道が好きになってくれることを期待し、

孤軍奮闘の夏を過ごすこととなるのです。誰の言葉か

定かではないのですが「教えるとは希望を語ること。

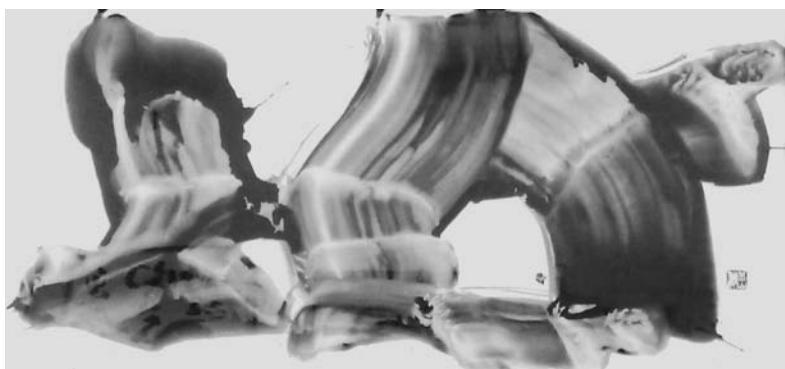
学ぶとは誠実を胸に刻むこと」断片的に覚えていました。子ども達との付き合いは結構気に入っているので私の元気の源かもしません。

写真は8月開催の地方展へ出品した作品です。宗左近の「螢鳴き 蟬灯り死者笑う また八月」。「炎える母」を編み出した宗左近の【八月】を思う時8月展示にはこの詩が適切かと淡墨で仕上げました。読んでもらいたいとの思いが強くありました。

私の主張の最終回にあたって、あらためて古典に深く向き合うこと、もがきながらも続けていくこと、後に続く人達と共に学んでいくことの確認ができたような気がします。

21世紀の書

—私の主張—



第67回書道芸術展

大石仙岳書

「らしく」生きること
近年、書道芸術院展で特別賞の候補者に推挙いただいたり、毎日書道展会員賞に推選されたりして、日々当たりが良すぎた。一方、地方の書壇や美術連

合会から、組織の主要幹部として任命いただいたらしく、嬉しさと光榮に興奮が止まらなかつた。

家族でお祝と感謝の宴を開き、一番揃りで乾杯し喜びを共にしながら、作家としての生き方を顧みる。そして、これまでの考え方の甘さを反省し、作家らしく生きる今後の指針を固める。

・作家らしく

・リーダーらしく

等々「らしく」生きる努力をする。口先だけだと陰口されないように。

「魂」燃える生氣の作に

生き生きとした一筆入魂の作品であるよう、制作の心得を確認してかかる。

常にリーダーらしい作品であるように心掛ける。

さて6回の稿がよく似た事ばかり述べてきたようでした
が、作文が苦手なのでご免ね。

第66回毎日書道展総評

辻元大雲

特集：第66回毎日書道展

昨年の65回記念展の諸行事を無事成功させた毎日書道展は新たに一步を66回展に向け2月初旬の運営委員会から始動した。展覧会の運営大綱を決定し、当番審査員、会員賞選考委員、事務局委員の組織などを決定して諸準備を進めた。4月中旬の事務局合同会議、5月初旬の作品搬入と例年通りの事務作業を経て公募会友の出品数が確定した。今回は昨年より各部とも出品減となり、3万点の大台を割ることとなった。2011年の大震災の影響が今頃になって表れてきたのかと不安に思われた。来年にはぜひ挽回をと願わざにはいられない。

5月の鑑別、6月の審査などは順調に進行し、会員賞選考、文部科学大臣賞選考も滞りなく国立新美術館にて行われ、今回は通常展として入賞枠などは昨年より減少した。本院関係入賞は下記一覧をご覧いただきたい。

全作品対象の文部科学大臣賞は漢字部の室井玄巒氏のダイナミックな1行書に輝き、多くの注目を集めた。会員賞は各部計26点に戻り本院からは刻字部の工藤渥舟さん、前衛書部知野洛水さんの2名が受賞、栄誉に輝いた。

恒例となつた企画展は昨年までの毎日展を代表する作家展を手島右卿展で一区切りとし、今回は「毎日書道展海外交流のあゆみ」と題し、40数年にわたる毎日書道展が歴史を刻んできた海外展などの足跡を写真パネルや資料を基に展示し、更に本年1月まで開催さ

れたフランス・パリ、国立ギメ東洋美術館での「SHO2 現代日本代表作家100人展」出品作品100点を前後期の2期に分け帰国展として発表した。毎日本展の出品作とは異なり、パリでの発表作品は趣の違いが多くの参観者の眼を惹きつけた展覧となつた。本企画展示の実行委員長として書道芸術院を代表して辻元大雲が担当させていただいたことは誠に光榮なことであった。多くの方々のご協力に感謝申し上げたい。

東京都美術館会場は昨年同様、理事

会員賞はじめ各賞受賞者を祝い、当番

審査員など関係役員の労をねぎらつた。

2次会を含め大いに盛り上がつた。

本院関係の主要役員は会員賞選考委員、当番審査員は既報のとおり。審査

は手順よく事務局の配慮が忍ばれた。

同日17時から芝パークホテルにて書道芸術院主催の出品者祝賀懇親会が200余名の参加を得て賑やかに開催され、余名の参加を得て賑やかに開催され、

会員賞はじめ各賞受賞者を祝い、当番

審査員など関係役員の労をねぎらつた。

2次会を含め大いに盛り上がつた。

本院関係の主要役員は会員賞選考委員、当番審査員は既報のとおり。審査

は手順よく事務局の配慮が忍ばれた。

長漢字I類半田藤扇、陳列部部長補佐

田村鄭雲、同かな部副部長田子白嶺、

同前衛書部副部長山口仙草、漢字部搬

入整理担当主任三浦鄭街、かな部入落

担当主任天海矩子、近代詩文書部入落

担当主任佐久間幸扇、著作権担当主任

金木和子、かな部I類審査主任平川峰

子、大字書部審査主任前田龍雲

第66回展出品数

全体	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
本年度公募出品数	3,997	5,397	1,743	2,032	4,684	1,685	389	802	1,239	21,968
			9,394	3,775						
本年度会友出品数	1,507	1,029	230	823	1,458	517	102	92	290	6,048
			2,536	1,053						
本年度U23出品数	205	417	121	78	529	228	37	10	68	1,693
			622	199						
合計		12,552		5,027	6,671	2,430	528	904	1,597	29,709
第65回展出品数		13,246		5,326	6,990	2,497	597	924	1,727	31,307
前年度増減		-694		-299	-319	-67	-69	-20	-130	-1,598
書道芸術院	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
本年度	188	244	122	147	518	206			98	479
前年	177	228	125	163	535	214			104	474
増減	11	16	-3	-16	-17	-8			-6	5
										-18

第66回展書道芸術院受賞者数

賞名	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
会員賞									1	1
毎日賞	3			2	4	2		1	3	15
秀作賞	2	3	4	1	7	5		2	8	32
佳作賞	8	5	3	7	16	8		3	14	64
U23毎日賞									1	1
U23新銳賞			1							1
U23奨励賞		1			2	1			1	5
合計	13	9	8	10	29	16		7	28	120

会員賞



工 藤 溪 舟
(刻字部)

私の毎日展初挑戦は古く、第27回展でした。近詩部、落選でした。公募時代は落選の方が多く、近詩部に加えて漢字部Ⅱ類、そして刻字部にも出品するようになりました。44回展から5回連続で秀作賞をいただき(全て刻字部)、何とか公募を卒業させていただきました。

初挑戦から丁度40年。会員になつてから18年目の会員賞受賞となりました。今回の会員賞受賞は鳥山岳風先生のアドバイスと後藤大峰先生のご指導があつてのこと。そして書道芸術院から選出された会員賞選考委員の先生方の

おかげです。
まだまだ書道芸術院への貢献度の低い私ですが、自らの精進と後進の指導を通してご恩返しをせねばと決意しています。ありがとうございます。

特集 第66回毎日書道展

会員賞



知野 洛水
(前衛書部)

この度は、伝統ある第66回毎日書道展におきまして、会員賞をいただき誠にありがとうございました。

これも偏に、公益財団法人書道芸術院理事長辻元大雲先生はじめ、諸先生方のお陰と心より感謝いたしております。

今回の作品の題名は、「樂」であり「人生楽しんでいこう」と思いを込めて、素朴さ、力強さを表現しました。私と「書」との出会いは、小学校の担任であった浜田一堂先生であります。就職のため上京し、昭和44年浜田先生から元書道芸術院会長である中島邑水

先生を紹介され、前衛書と出会いました。邑水先生は常に、「書美の根源は線にあり、新しい書の創造は古典の研究を基底として発展する」と言っておられました。今は直接話を聞くことは出来ませんが、これからも村野大仙先生の元で古典に向き合い、自己研鑽に努めて行く所存でありますので今後ともよろしくご指導をお願いいたします。



前衛書部 知野 洛水

毎 日 賞



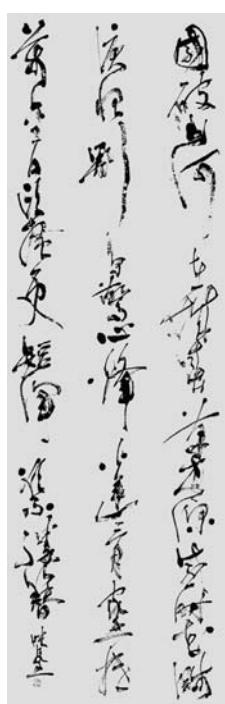
かな部II類
乙倉 翠芳



漢字部I類
廣田頼亀



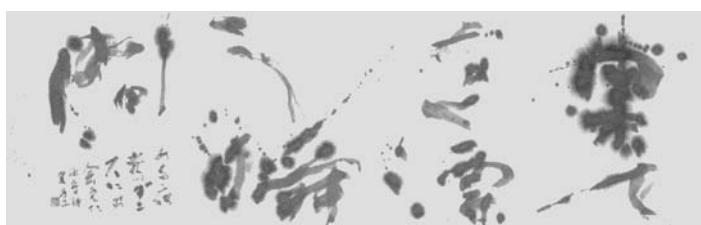
漢字部I類
西川翠嵐



漢字部I類
一森 映泉



近代詩文書部 秋山之扇



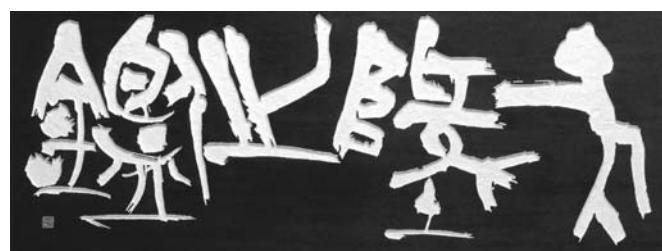
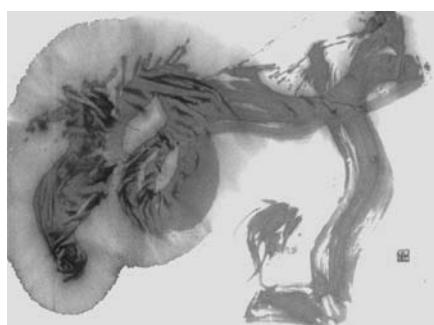
かな部II類
藤原 三枝子



近代詩文書部 鈴木承琳



毎日賞



秀作賞受賞者

佳作賞受賞者

刻字部
大沼樵峰 澄田佳奈子 鈴木香風

・漢字部(Ⅰ類)
小川白柳 影山扇葉

・漢字部(Ⅱ類)
板橋雅邦 大山和歌子 森田藤谷

・漢字部(Ⅰ類)
一谷春窓 伊藤陵雲 西古春堂
竹浪叙舟 本田春穂 松本深泉

・漢字部(Ⅱ類)
岡 映里 加藤雅方 渋谷螢江
新行内芳蘭 田口鈴水 横口玉葉

・前衛書部
相澤敦子 浅見由紀子 石井和子
大村直子 河端祥桜 栗原鼎城
砂岡裕子 高橋栄杏 田代明眸
藤田香園 中村恵子 星野成美
星丘菜萸 藤井佳奈子 鈴木香風

・かな部(Ⅰ類)
稻村由宇記 都丸みどり 野村 知
治田芳江

・かな部(Ⅱ類)
柏崎六郷

・漢字部(Ⅰ類)
栗原信子 逸見玲子 松本泰泉

・漢字部(Ⅱ類)
飯島律子 佐藤希雲 関口ヤヨエ

・かな部(Ⅱ類)
京 繩子

・近代詩文書部
阿部恵泉 小野原紅華 金濱珀燐
錢谷雪蘭 高橋 潤 高橋 四蓮
高橋真舟

・近代詩文書部
田中紅葉 田村玲子 中川紅蘭
松井知子

・大字書部

阿鴻浜翠燕 菊池邑奈 小林青峰

・近代詩文書部
坂本簪花 佐藤弦佳 佐藤光耀
椎木山風 重村恵月 下野美紀
鈴木翠夢 田中梢翠 長島僊雨
新田雄山 早川蕙風 松村秀扇

・刻字部

篠田華所 野登蒼山

・前衛書部

浅野彩紅 岩上郁子 小此木白洋
角張芳蘭 佐藤友恵 高橋蘭花
畠中成山 茂木真蘭

・大字書部
柄山明珠 木下玲窓 寺内宏山
中西綠翠 長峯万扇 松山清風
吉永春園 吉永杏花

U23奨励賞

・漢字部(Ⅱ類)
小林舟驥

・近代詩文書部
在田永子 宮戸雲水

・大字書部

・前衛書部
堀尾有貴

・前衛書部
藤崎桜花

・大字書部

阿部恵泉 小野原紅華 金濱珀燐
钱谷雪蘭 高橋 潤 高橋 四蓮
高橋真舟

・近代詩文書部
田中紅葉 田村玲子 中川紅蘭
松井知子

・漢字部(Ⅰ類)
稻村由宇記 都丸みどり 野村 知
治田芳江

・漢字部(Ⅱ類)
柏崎六郷

・かな部(Ⅰ類)
京 繩子

・近代詩文書部
坂本簪花 佐藤弦佳 佐藤光耀
椎木山風 重村恵月 下野美紀
鈴木翠夢 田中梢翠 長島僊雨
新田雄山 早川蕙風 松村秀扇

・刻字部

篠田華所 野登蒼山

・前衛書部

浅野彩紅 岩上郁子 小此木白洋
角張芳蘭 佐藤友恵 高橋蘭花
畠中成山 茂木真蘭

・大字書部

柄山明珠 木下玲窓 寺内宏山
中西綠翠 長峯万扇 松山清風
吉永春園 吉永杏花



次代を担うU23受賞者



お世話をした毎日書道展役員の先生方

礼器碑（後漢）③

〈解説〉 この碑は、今からおよそ1800年前、後漢の桓帝の永寿2年（156）に刻されたものです。碑陽は16行、1行36文字、碑陰は3段で各段17行、側碑左側は3段、各段4行、右側は4段で各4行となっています。

礼器碑の書者については明確ではありませんが、当時第一流の名家と称された蔡邕の作との見方が有力です。ただし、正面と碑陰、右側と左側、それぞれに微妙な相異があることから、7人で書いたものとの見方をする研究者もいま

す。しかしながら全体をつらぬく共通的な要素からすれば、同一人物が時を経て書いたと考えるのが妥当かと思われます。

それがどのようにして書したかは別として、この碑が後世の書家に大きな影響をおよぼしたことは事実でしょう。褚遂良の雁塔聖教序や顏真卿の宋廣平碑などは、その源をこの碑に発したものであるとの見方も在存しています。

（編集部）

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

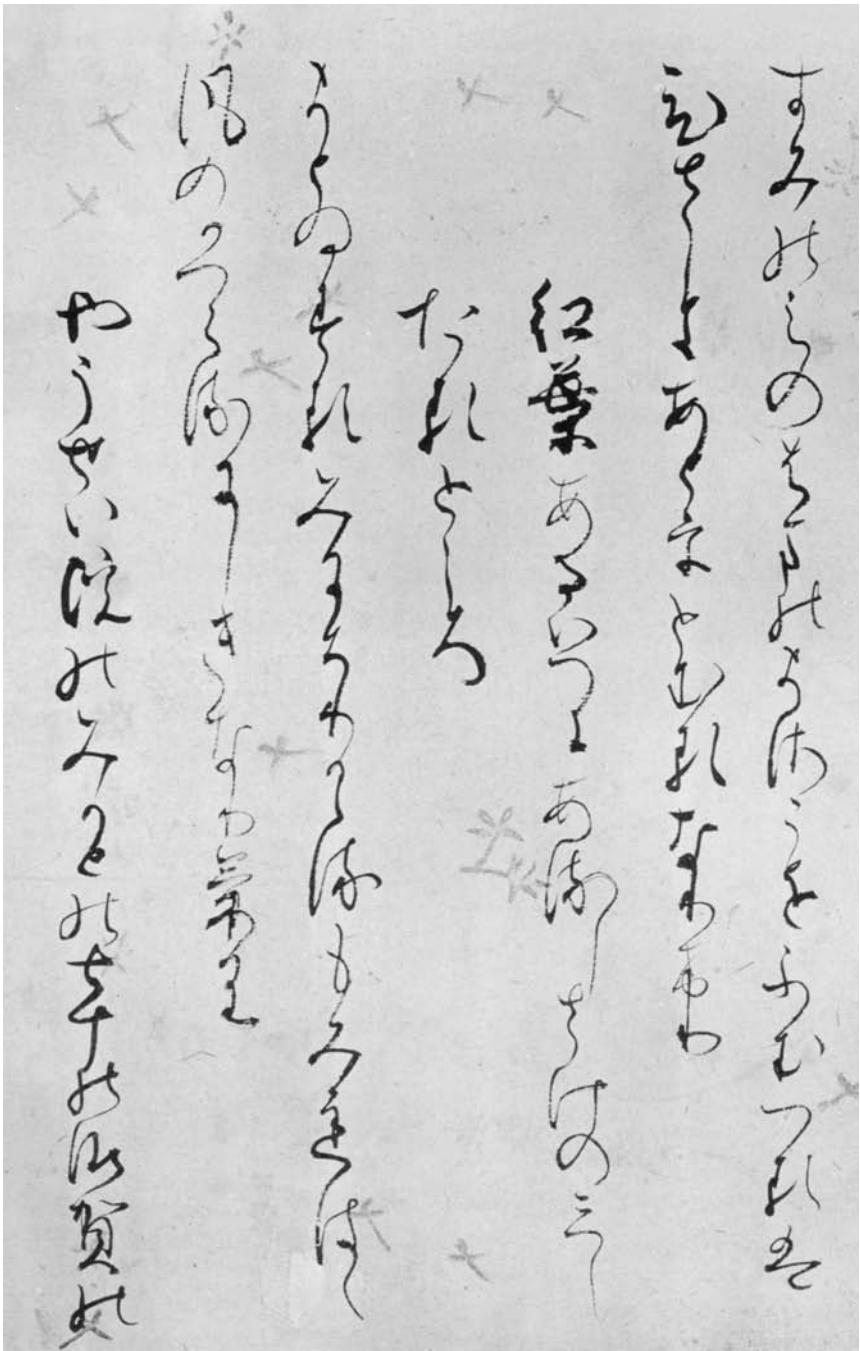


（77%縮小）

※落款を必ず入れる 署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

石山切（伊勢集）
(筆者不明)

③



(90%縮小)

<解説>

物語風の記述は、伊勢の生涯や当時の後宮文化を知る上でも貴重である。藤原定家の下に書写された鎌倉時代の古写本として、また完本として現存する最古の写本として重要である。冷泉家に代々伝わる証本として実際に使用されていたことを示している。書風は三十六人集中、最もすぐれていると言われている。墨の潤滑を極端につけ、また線の太細を巧みに取り入れ、おごそかで重々しく流麗な連続の世界を展開させている。(編集部)

<よみ>

すみのえのはまのまさごをふむつるは
ひさしきあとをとむるなりけり

紅葉あるいへにあるじさけのみし

たるところ

まとるするみにちりかゝるもみぢばゝ
風のかづくるにしきなりけり

やうぜい院のみかどの七十の御賀の能

特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
II 別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

かな研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

習い方解説 (六)

辻元大雲

竹影亂侵畦
(竹影亂れて畦を侵す)
(對句集)

竹影亂れて畦を侵す。「畦」は
はたけ、あぜのこと。秋風に竹が
あおられその影が田畠のうねをお
おう情景を謳つたもの。

今回は隸書表現の5字句です。

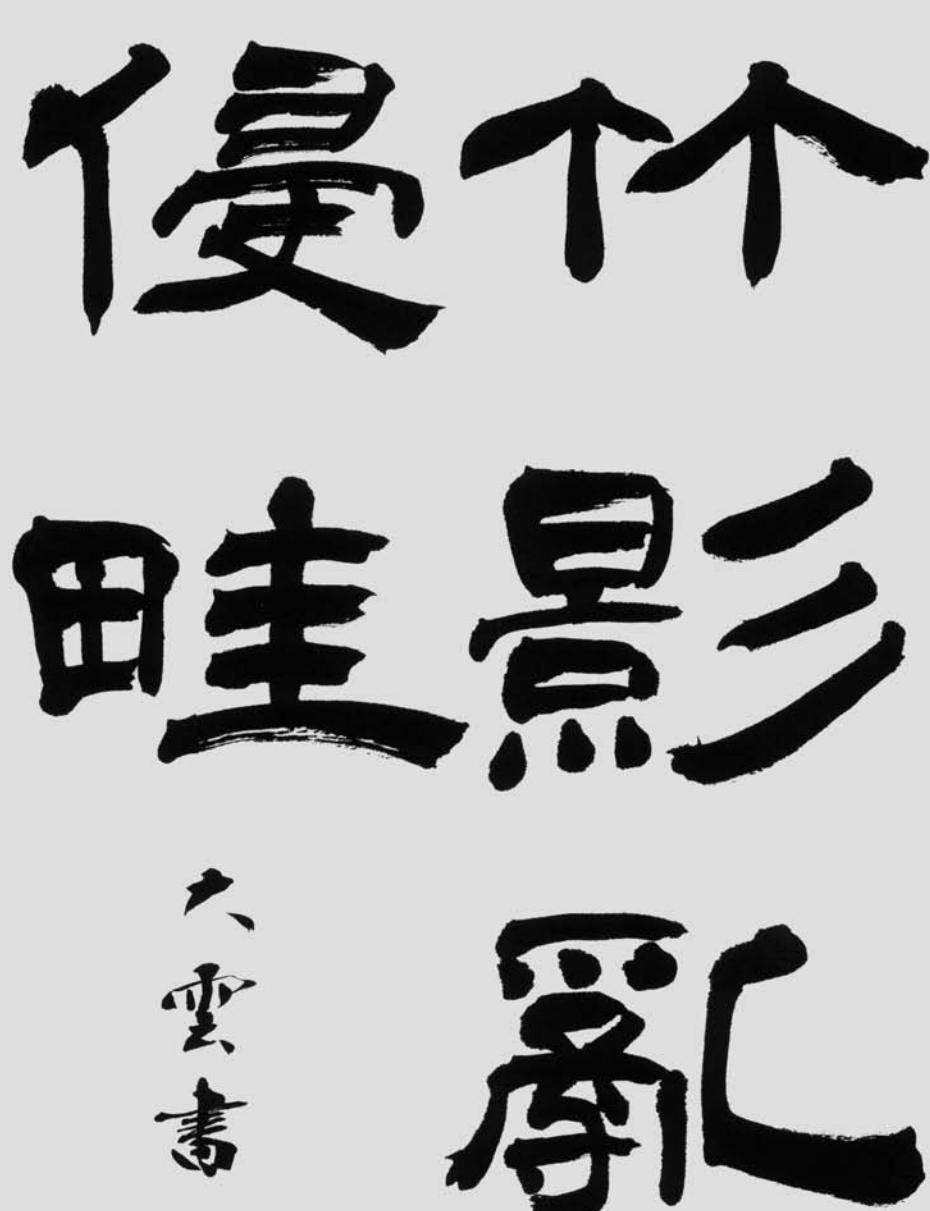
隸書は漢代に完成した八分隸が典
型です。素朴な古隸表現も味わい

深いですね。どっしりと安定感の
ある隸書には独特の味わいがあり
人気があります。その書法は逆入
平出、藏峰、波磔など特徴的で比
較的形の取りやすさがあります。
楷書や行書に慣れた人はやや右上
がり縦長に書く癖があり、隸書の
場合は全体的に水平、横広に字形
を取りますのでポイントをしつか
り押さえて表現してください。

落款は前回と変わり行書でまと
めました。隸書で表現してももち
ろんかまいません。いろいろ試し
てみてください。

竹影亂侵畦 よみ(竹影乱れて畦を侵す)

書体=自由



習い方解説 (六)

小伏小扇

仰觀山俯聽泉
(仰いで山を観、俯して泉を聴く)
(白居易)

先月にひきつづき、孟法師碑を基に書いてみました。

「仰觀山俯聽泉」の白居易の語句を自選しましたが、字数も画数も多く、最初は左側3文字が半紙に納まらず困りました。

「泉」の字の「水」のたて画が、短くならぬように気をつけてください。

「仰」の字の3部分の上辺、下辺の位置がむずかしいです。

「観」の字の「隹」の横画は、下にゆくに従って水平になるよう書いてください。

仰觀山俯聽泉

よみ (あおいで山を観、俯して泉を聴く)

小扇書

書体=楷書



かな規定 初段以上【十月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

習い方解説 (六)

下谷洋子

かやのいるものみな美しき
(石田波郷)

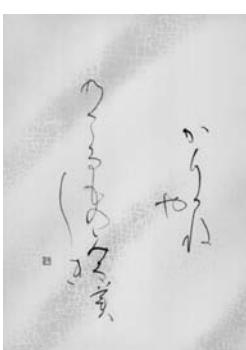
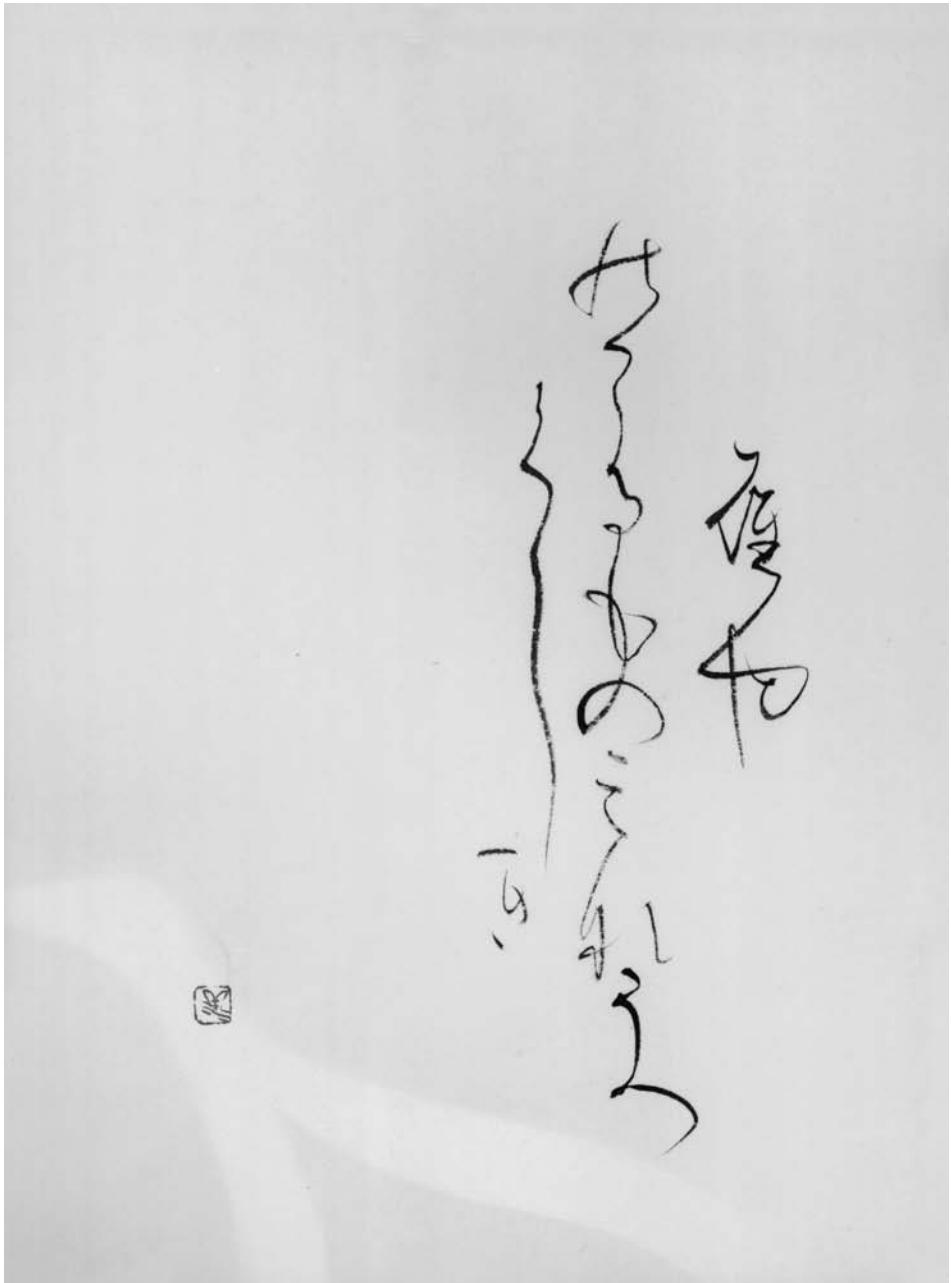
よみ方 雁やの(能)こるもののみ(二)な(那)うつ(川)く(久)しき

創作

△参考▽

かなの臨書は原寸でされる方が多いと思いますが、初めは必ず拡大にして、線の組み合わせを確かめましょう。変体がなは漢字の草書が基本で、それをさらに柔らかく簡略化したものもあります。特にタテ画とヨコ画の交差する部分や結びなど、筆を突き立てたかどうかによって全く別の字になるほど繊細なのです(例 尔と支)。

かなを勉強するにはしっかりと草書を把握し、その上で字源(字母)がどうあるのかを理解しながら臨んでほしい。同じ変体がなでも單体或いは連綿など用い方によって微妙に変化します。その微かな変化を誤字にしないよう、常に字母を確かめ、思い込みはやめましょう。

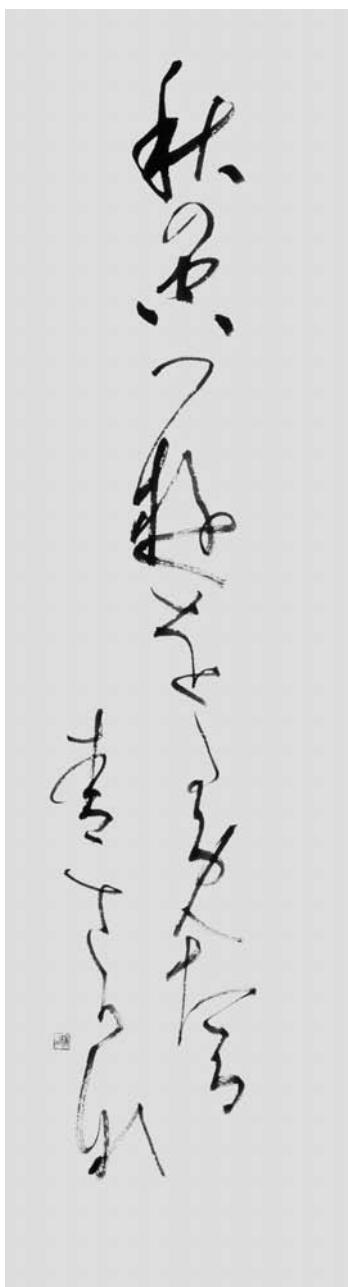


かな規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて 32センチ・よこ 12センチ)

(掲載写真縮小 85%)

高野切第三種

(掲載写真縮小 85%)

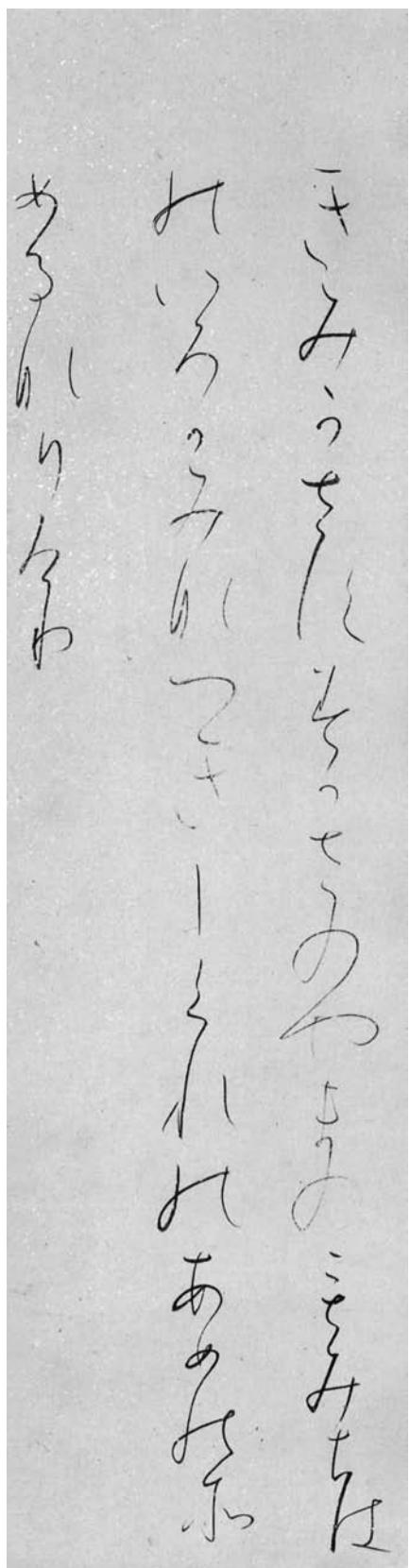


かな条幅規定【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

秋の空露をためたる青さかな
(正岡子規)

習い方解説 (三)
奥田瑞舟



よみ方 きみが(可)さす(須)み(美)か(可)さのやまのも(毛)みぢば

の(能)いろか(可)みな(那)づきしづぐ(久)れの(能)あめの(能)そ(所)めるな(那)りけ(介)り(利)

よみ方 秋の空露(つ遊)をた(多)め(免)た(太)る青さか(可)な(那)

創作

*たて形式に限る

墨継ぎの位置を変えることで、表情が違ってくると思います。
多で墨継ぎと一行頑張って青で墨継ぎをする。一句書いてしまう等です。
筆もきまったく筆で書いていませんか。かな用で鋭い線も大切ですが、漢字で使います羊毫で、よく使い込んである加料條幅等は、抜がる線や捻転で、魅力ある線が出ます。使ってみて下さい。

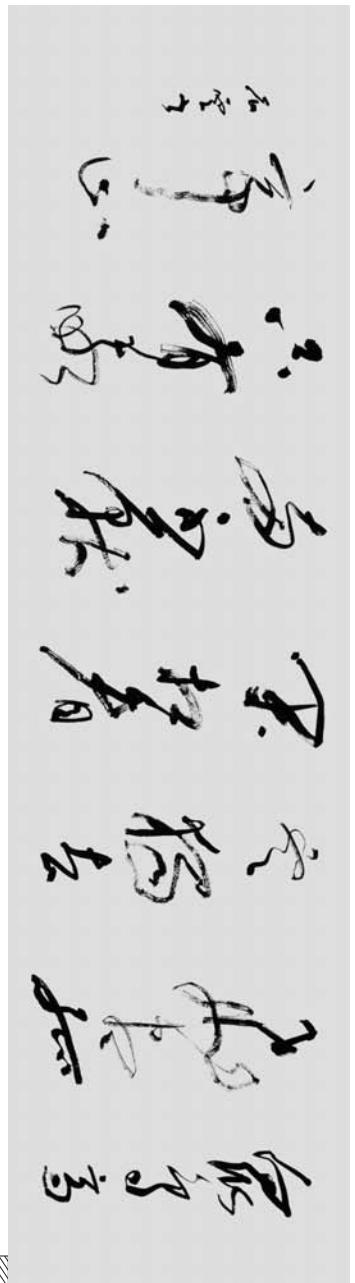
漢字条幅規定 初段以上 [十月十五日締めきり]

用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (六)

小竹石雲



衆鳥高飛盡
孤雲獨去閑
相看兩不厭
只有敬亭山

(衆鳥高く飛んで尽き、孤雲独り去つて閑なり。相見て兩つながら厭かざるは、只敬亭山有るのみ。)

書体=自由

出品券
貼付位置

鳥たちは空高く飛んでいき、雲も遠くへ流れたり、あたりは静かである。この衆鳥と孤雲とが視界から遠く消え去ると、只だ敬亭山有るのみと自然と一体化した一首です。これを草書を中心連綿を交じえて書いてみました。横作品では行間の響き合いが大切です。「静」と「動」相反するものを調和させることに心がけて書いてみました。

*よじ形式に限る

習い方解説 (六)

小浜大明

選書

漢字条幅規定 秀級以下 [十月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切



(H中)

書体=自由

今日は隸書体で書いてみました。この書体は馴染みがうすい人もおられるかと思いますので、基礎的な説明をしますと、字形は横広で、横画の角度は水平に表現します。又、逆入平出の筆法を用います。今回は古隸の筆法で書いてみましたが、終筆を払つて書く八分隸もあります。

意味は「静かなかやぶきの家に、本を読む灯がともっている」です。

書燈茅屋靜
(書燈茅屋靜かなり)

習い方解説 (六)

小島孝予

蛤のふたみにわかれ行秋ぞ
「私は、れから一見が浦へ向かうか。
君たちとの別れは蛤の身が蓋
から引き、列衣からよつてにづら、」
内容は重いが、言葉は軽々と
くわくわ。

孝予書

第四部で芭蕉がたどりついた答えの「かるみ」とは、「言でいえば悲惨な世界を軽々と生きてゆくということです。つまり人の世が出会いと別れを繰り返しながら、その実何一つ変わらないのであれば、そのことに一喜一憂せず、不易に立って流行を楽しみながら軽々と生きていきたいという芭蕉の願いであり、この「かるみ」こそが「おくの細道」の一番の旅土産でした。

(NHK 100分de名著 松尾芭蕉 おくのほ

そ道 長谷川禪著より抜粋)

最終回になりました。芭蕉の世界を題材に、ペン字の基礎を共に学びました。初心者はもちろん、上中級者も基本に忠実に繰り返し練習することは重要であり、このことは書のみならず全てに通じることだと思います。常に向上心と探究心をもち、基本に忠実な練習の積み重ねによって樂しさが味わえ、やがて自己の書が確立していくのではないかでしょうか。

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

*落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 639

ペン字部 師範 都丸みどり

絶妙の余白が、作品を際立たせている。紙面をしっかりと把握し余裕を感じさせる作品になった。

◎ペン字部総評 ペン字も書作品と同様に立体感のある作品が良い。潤渴やりズムの変化により、より良い作品に向かって。（鄭街評）

閑さや岩にしみ入蟬の声
梅雨の雲が吹き払われて、夏の青空が広がるように突然蟬の鳴き声現実の向こうから深閑と静まりがえる宇宙が姿を現わした。
ひとり書団

かな条幅部 師範 藤村 昌子

直線が利き、無駄のない流れがすつきりと軽やか。太細のバランスもよく、美しい墨色が映える。

◎かな条幅部総評 慢れない運行書のため、文字の大きさの配分がつかみにくかったようですが、誤字も少なく見事でした。（洋子評）

前衛書部 特選 高原 梨秀

淡墨と濃墨作品で空間処理と細く鋭い線が利いて格調高い作となっている。右下やや重いか。

◎前衛書部総評 作品点数が増え淡墨で余白の美しい作品が多く、今後に期待します。（仙草評）



漢字条幅部 師範 一森 琴映

躍動感に溢れ、渴筆が美しく輝いている。筆の動きが流暢で、熟達した手腕から生まれた見事な作。



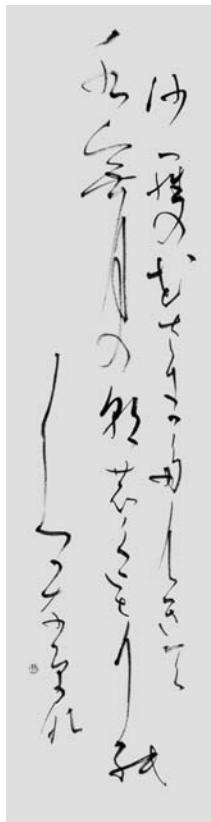
◎漢字条幅部総評 字典を調べて草稿を作りましょう。正しい字を基にして作品を書く事が大切です。（萬城評）

(萬城評)

現代詩文書部 特選 原田 寛

「白が美しい」筆が開き腹を滑らせて柔らかさを出し、墨色が抒情を醸し出していて感性豊かな作。

◎現代詩文書部総評 今月は全般的に文字を確り書いていない作と墨色の悪さが目立った。（素雪評）



漢字部 師範 西野 琴菴

ねばり強い筆致が紙面に動きと充実感を醸し出し、力感溢れる作となつた。落款やや雑か。

◎漢字部総評 上級者参考例による作多かつたが運筆のリズム不足が目立つた。下級者も含め運腕を大きく生氣ある作を。（大雲評）

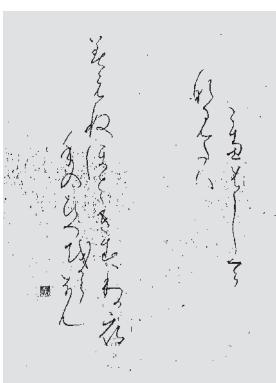


かな部 師範 新谷 凰泉

リズム感ある運筆、粗密ある構成が完璧。中央の大膽な余白が作品を大きく見せて、小気味よい。

◎かな部総評 変体がなぞ、無に誤字多く残念。手本に捕らわれすぎず、自由な表現を目指すこと。

1字の置き換えから！（明子評）



今月の

特別研究部優秀作品(特選)



野口加奈書

62×180cm



贊治の詩 藤象書

178×60cm

「甘藍の球は弾けて」

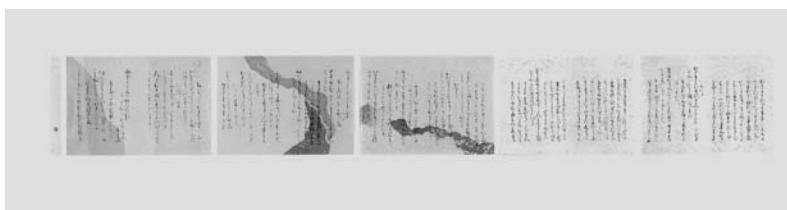
現代詩文書 (もくせい) 西川藤象

- ◆ 同じ形のくり返しを黒の濃淡だけで表現した作。造形は面白いが墨の色は一考を要する。
(蒼玄評)
- ◆ 書き始めの墨の含ませ方が、後の線と違っている感じ。主を考えての墨色の出し方に一考を。筆力抜群。
(倫子評)
- ◆ 淡墨による不思議な潤滑の変化が独特の味わいを感じさせ、大きく広がりある作。右辺ややうるさい。
(大雲評)
- ◆ 似て非なる左右の造形がユニーク。筆圧の関係か右の墨色はやや汚く見える。浮遊感が心に残る。
(洋子評)

前衛書
(四谷)
野口加奈

西川藤象書

臨書 (高崎) 根津飛龍 「石山切(伊勢集)」



根津飛龍臨

53×180cm

部分拡大



- ◆ 古筆に倣った料紙を用い、伊勢集の彈力のあるリズムを精緻に書きました。この調子で更に向上を!
(洋子評)
- ◆ 近くで見るとやや離れて見た時に線の強弱の差を感じるのはどうしてか。筆の技か行間の取り方か?
(倫子評)
- ◆ ほぼ原寸での臨書作。正確な観察力と表現技術の高さを買う。細線部にやや不安な所あり。更に努力を。
(大雲評)
- ◆ 料紙の色合を上手に使い古典的味を表現してよい。細い線に弱さを感じるが紙が固い為かもしない。
(蒼玄評)

- ◆ 大きな思いを持った詩を受け表現したすばらしい作。墨色も紙にぴったりとして、安定感あり。
(倫子評)
- ◆ 2本連筆か、鋭い筆致が明快さを生み、余白の美しさが魅力。
2行目上部やや上すべりしたか。
(大雲評)
- ◆ 強弱・太細の線が空間に浮遊する。2行目の字形が左右対称的になつたのは残念であるが線の切れは良い。
(蒼玄評)

◆ どこまでも大らかに明るくて表現したすばらしい作。墨色も紙にぴったりとして、安定感あり。
(洋子評)

臨書（英峰）佐藤桂香

(英峰)

「礼器碑」

(英峰) 佐藤桂香



現代詩文書
(蒼原) 金濱珀燁 「崇の詩」

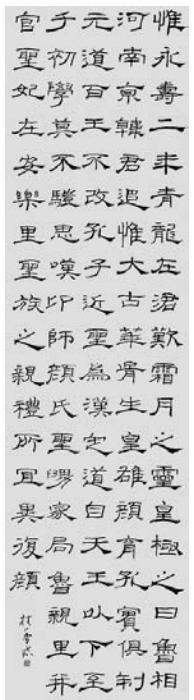
70×137cm

◆螢の光が生き急ぐ思いをそのまま表現し、夜空の世界に蛙の鳴き声がバックに感じられすればらしい夜。
(倫子評)

◆練度を感じさせる線が重厚な趣。やや淡々と書きすぎた感もあるが、逆に街いないリズムに工夫を。
◆潤渴の変化がバランスよく配置されリズム感溢れる作。後半の行立てにやや違和感ある。更に工夫を。
(大雲評)
(洋子評)

◆少々全体に重い感じはするが
多字数を上手に配置し特に後半
部は字形を小さくし余白を出し
ている。
(蒼玄評)

(蒼玄評)



佐藤桂香臨

174×45cm

◆礼器碑の鋭さと安定感をよく表現し、臨書作品として完成度高い作。横画のうねりがやや気になる。(大雲評)

◆厳しい妙趣に富む礼器碑を自分のものにして格調を出した。初めの運筆と途中やや変わるのは何故か。
(洋子評)



前衛書
(白珠)

「亩」
磯沼麗華

三

「四」

10

◆白と黒のコントラストが鮮烈に輝く左の黒の重量感と右のスピードある線が見えた者に広がりを感じさせる。（蒼玄評）

◆体全身を使って表現、迫力がすばらしい。その力が乗りすぎると線と線との結びつきに疑問が湧きます。

◆白と黒のコントラストが鮮烈に輝く左の黒の重量感と右のスピードある線が見る者に広がりを感じさせる。

◆ 礼器の切れのある線質で全体をまとめ伸々とした特徴を表現して良いが、礼器は太い線もある事を意識する事。
(蒼玄評)

總出品点數
8

漢字研究部
(礼器碑)

選評 小伏小扇

今月のホープ作品

二 唯 永 青

森 下 祥 泉

漢字研究部 特選 森下 祥泉
礼器碑は、波磔の長い八分隸ですが、6字をいすれにふれることなく見事に配字しています。線質も円筆と側筆を巧みに使いわけています。潤墨の量もさすがに感心させられる魅力あふれる作品です。

◎漢字研究部総評

上位の作品の中に「年」字の欠画のある作品が多くみられ残念に思いました。私たち

はまず、原形に忠実な臨書を心がけ、細い線を多用してのスマートさや、太線をはじめての、思い切った波磔を付けての歯切れのよいリズムを得得しましょう。

中鋒の特質を生かした、線に張りをもたせ、明るい表現が得られるまで、くり返しの練習が一番大切だと感じました。



春静美剛森惠
麗城和洞城子

七カ友直和葉
ツ香生子里浩夏舟

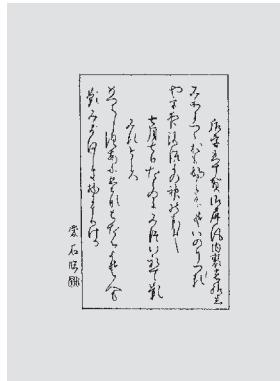
芳み小華翠作
つ翠え秋雲雲夢

炎和美美絹祥
加秀江泉艸子雲

か な 研 究 部
(石山切)

選評 田 村 澄 子

今月のホープ作品



松丸愛石

かな研究部 特選 松丸 愛石
見事な観察力、この継ぎが見たい。鋒の先まで意
氣とどき、墨量、潤い、すべて整い、敬服いたしま
した。

かな研究部成績表

かな研究部成績表		評	
千彩大有椿竜松葉雲秋翠泉村秀猪伊磯石安浅青又藤貝川藤川木美み理敏清洋代な玉扇子耀子江枝	玉竜上や彩玉や竜英玉竜誉四うNこた奥玉紅書治A大石松泉村ま松ま泉峰松泉田谷のHだか田松遙泉田I雲習橋高山田岸長伊後吉青櫻小陸飯伊梅猿小須都古伊黒松本橋縣玉田谷東藤瀬木田野高藤原渡林川田丸矢藤柳丸60音圖紅雅令哲東千京良彩葵龍理喜幹良虹筆彩香ど潤壽竹愛麗泉子子峰子泉雨鄭貞絵代生佑祥右風香舟子葉石	特選	この続きが見たい。鋒の先まで潤い、すべて整い、敬服いたしま
もく佳	東幸あ高長華蓮大泉千土泉雲石生春土若干治蕙蒼竜雲』広N福蘭秀彩A竜美扇か井月仙紅雲会葉氣会溪舟大汀氣松葉田晝原泉雀島日山鼎明I泉	特選	第一回目でまだ理解していない方
青木作	吉山本松增前本堀北平西仲内豊渡杉菅紫佐坂齋後劔熊川川川大大生今田本吉田田川田切條山澤田西藤田子田沢雲藤本田田崎森鳴万村ち百美由	松丸	いますが、字が抜けた箇所が、半
藤連	眞梅明代佳栄美幸靖彩璫時游古翠紀祥合煌京里舞知霜紫南温綾優喜信美貴理香香子子雪雲子華美子溪塘玉子風月美夢子風蘭汀子美子代子泉	愛石	もう一度読み下して臨書して下さ
仙千研高台翠陵入	京蓮竹や高紅如硯こ澄高前A大や玉高秀遊上倉千秀童立英幕『童書弘澄上清た詢梓竹秀正澄こ高澄玉和書大水橋紅扇ま崎苑月水だ春崎橋I阪ま川崎畠雲泉吉葉水泉精峰張』泉游舟春泉月か扇江扇水華春だ真春川平游阪海	特選	第一回目でまだ理解していない方
熱足淺會海立川木桃万君勇翠琇子介	吉遊山矢茂武宮宮松別藤野平野根長長中中戸富士千田高泉鈴庄渋齋後小河工川河門加小大梅宇岩今井石生飯田佐村口口木藤澤川内浦府村井田中津島井村江村澤谷田中橋水木司谷藤藤林野藤元岡脇瀬川石山田瀬井上川駒泉60音圖佑紅炎律登真房草洋幸玉信昌智美喜飛一久げよ博惠つ白蒼賢龍利韻美翠考嘉白香茱星曰輝星久春祥花英桂萩洋子雅秀子江蘭枝秋子平江子子子和子龍水仙子子舟江香子雲玉子艸子香市江薑蘭仙扇子夏峯祥子華園枝二華花子	松丸	いますが、字が抜けた箇所が、半
華樹春明千昆松四春高稲英や樹館蒼高蕙椿千蘭若生大千生東大竜こ華樹上安白泉伏玉筑清東土前澄秀旭筑誠八岩生こも京仙原汀漢葉陽村谷汀崎毛峰ま原山陽崎書翠葉鼎葉大阪葉大向雲泉こ祥原泉波驚会華葉桜月絶氣橋春明老桜和戸沼大だ橋	特選	この続きが見たい。鋒の先まで潤い、すべて整い、敬服いたしま	
鈴庄下嶋渋穴鹿佐酒斎芋齋紺小込小小河小工北岸菊菊菖河加加加葛甲小乙小小岡大江薄白碓植岩岩伊市市石石五新阿木司田谷倉田藤々井藤藤野山山峰林林野板藤又本地池野合藤藤藤木野幡高熊西田井井田崎井藤川川崎黒十井部加与世木由か美寺喜美由	特選	第一回目でまだ理解していない方	
智繁子徳愛和志諦和知美早つ遊笙美加雅晃蕙さ山春萩泰善静和龍翠雅惠清久智西代佐一茂春媛美洋よ悦順紫正春佳藤蕙千子子華子江子子子子苗え山洋津姫子代子ら房映茜峰高代敬恵陽芳美二美美鈴子子美夫縁乃弘弦子子泉子合采雪清	特選	いますが、字が抜けた箇所が、半	
自治塙青書正華椿も英調春生菊玉幕千正澄上詢稻湘竹生有土は白惠大一春土上大も大た大秀翠生玉明椿樹た幸澄還露田和峰游華祥翠く峰布丁大月川張葉華春泉扇毛南扇大秋氣せ珠雲阪葦汀氣泉阪く阪か雲畠柳大松漢翠原か扇春	特選	この続きが見たい。鋒の先まで潤い、すべて整い、敬服いたしま	
160渡鷲若吉遊山山安森村武富宮宮湊三松松増本程細古船藤福平除長延西西永中中仲中富戸篤権積筑近田田竹高高高名辺山菜田佐根崎鳴田山藤野下崎嶋島重岡田多野村郡津本田山尾谷山山澤岡村塚田尾田部田泉井池村中中森橋橋権名氏名略重き矩光一納桜沙藤龍薰達樂美敏翠翠律華和惠貴美裕喜優ほ久文裕彩小一絢芽惠萩藤秋雪雅宏柳春耶文弓志恵汐幸重子り子治榮子江子谷峰峰枝翠明子子舟景子秀枝子子美扇子子美人峰紀琴子生子彩風峯雲子芳華衣江子朋泉風充	特選	第一回目でまだ理解していない方	